

※「S-NET」は高等教育コンソーシアム信州の通称です。「S」は Shinshu・Self-Study・Share・Scale・Social を表し、「NET」は情報通信・教職員・学生間のネットワークを表します。

第5回ピア・メンター育成キャンプ開催報告特集

当コンソーシアムでは、毎年夏季休業中にピア・メンター育成キャンプを行っております。このキャンプは、学生がより積極的に授業に参加できるよう、グループ学習で、教員をサポートし学生どうしのディスカッションの推進役を務める「学生ピア・メンター」を育成することを目的としています。

第5回目の今年は、ポートフォリオづくりやオリエンテーリング(フォトビンゴ)、劇の制作・上演を行い、参加者からは、他大学の学生や教職員とも交流が深められたと大変好評でした。

今回は、例年にも増して高評価をいただいたこのピア・メンター育成キャンプについて、キャンプの講師である加藤鉦三先生(信州大学)の開催報告を紹介いたします。



第5回ピア・メンター育成キャンプ参加者

—第5回ピアメンター育成キャンプの報告—



高等教育コンソーシアム信州
 教育部会長
 加藤 鉦三
 (信州大学高等教育研究センター教授)

高等教育コンソーシアム信州「第5回ピアメンター育成キャンプ」は、8月30日・31日の一泊二日の日程で、国立妙高青少年自然の家を会場に開催されました。参加者は、コンソーシアム加盟7大学から、学生24名、教職員7名でした。

今回のテーマは「『チームを輝かせる私』という自分を作る」というものを設定しました。このテーマは二つの部分があります。まず「自分を作る」という部分です。就職活動を始めると、「自分探し」を迫られます。しかしそんなものは探しても見つかりません。それよりも、例えば「3年後の私はこれこれができる人になっている」というような目標を立てておいて、その目標に近づくことを意識して、日々の日常生活の中でその目標に向かって自分を作っていく、という方がよほど現実的です。キャンプでは「ポートフォリオ」という道具を使って「自分作り」を体験してみる、という作業をしました。

二つめは、「チームを輝かせる私」という部分です。今後は、種類と属性と専門の違う人たちがその仕事の間だけのグループで一つの仕事を成し遂げていく、という仕事のしかたが増えることが見込まれます。それに適応できる「自分を作る」ために、学生も教職員も、5分以上7分以内のドラマを作って演じる、という課題に挑戦しました。ドラマのテーマは、「うまく行っていないグループがうまく行くようになる時の過程を表現する」というものでした。実際にどのようなドラマが演じられたのかは、当コンソーシアムのウェブサイトで見ることができます。ぜひご覧ください。中には素人芸とは思えないような大傑作もありました。



グループ学習の様子

企画者として、私はこの企画は大成功であったと考えています。アンケートでは、

- ・自分探しではなく自分作り、という考え方を理解できた
- ・チームがうまく行く要因、うまく行かなくする要因について理解できた
- ・「私がいるおかげでチームがうまく行く」という私になるために努力してみよう、という気になった

という3つ設問すべてに90%以上が肯定的に答えており、更にその回答の半分以上はとても肯定的に答えています。また、自由記述として寄せられたコメントも、「楽しかった」「来てよかった」というものなど、ほとんどが肯定的な反応となっています。このように、コンソーシアムの取組の中でこのピアメンターキャンプは最も成功しているもののひとつであることは間違いなく、今後この活動を重点的に進めていくこととなっています。

信州大学 平成 25 年度前期集中講義（単位互換）「信州の強みを生きる」実施報告

信州大学では、当コンソーシアム加盟大学の講師が共同で授業を行う単位互換授業「信州の強みを生きる」を、この度初めて開講しました。この授業は、野辺山に生きる人たちの強さがどこから来るものであるのかを、事前講習、インタビュー、農作業体験、講義等を通して学び、その後、「食」をテーマに、高地での農業を学び、農作業と食事作りを体験するという内容の授業です。

講師のお一人である宮越幸代先生（長野県看護大学）の実施報告を紹介します。



講義を受けている様子

一野辺山で見つけた! 信州の強み 単位互換授業「信州の強みを生きる」一



長野県看護大学
宮越 幸代
准教授

「信州」を体験し、自分が歩いていく力にしよう!今年度初開講の「信州の強みを生きる」は、9月17日から4日間実施されました。7月のオリエンテーション後、学生は会場となる野辺山の「開拓の歴史や人々の暮らし」を事前学習し、グループごとに「旬の食材を用い、地域の生活や健康問題を意識したメニュー」の準備にとりかかりました。そしてい

よいよ、9月でも4℃になることがあるという標高1,351mの信大農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター（通称：野辺山ステーション）に、17名の学生と3名の教員が参集しました。

学生は科目担当の加藤鉦三教授（信州大学）が示すポートフォリオを元に、各自が授業での目標を定め、具体的な根拠とともに自分の成長を記録しました。授業内容は、長く農村医療に携わる医師による講義、村の高齢者との対話、高冷地の農業や農産物についての講義と演習、収穫した野菜や自分



キャベツの収穫作業

たちで買い付けた食材での自炊など、多様な構成を準備しました。台風直撃日の集合、コンビニも自動販売機もない、自分達が食べるものはすべて自前で、という授業は、準備段階から緊張感をはらむものでした。農作

業では、前屈みの姿勢を保ちながら鋭い包丁で大きなキャベツを根元から切り取り、サイズごとに指定が異なる方法で箱詰めする作業を2時間以上も続けました。これは、かつて農夫症などの病を抱えつつ、広大な農地を開拓してきた人々の思いと苦勞を知る一方、それを食材として皆でいただける幸せやおいしさを噛みしめる体験となりました。また、買い物もそれほど便利ではない野辺山では、事前計画した食材が入手できるとは限りません。そこで教員は全期間ほぼ学生と行動をともし、厨房で



自分たちで収穫し、調理した食事を楽しむ様子

では毎回、準備から片付けまで田村亮子教授（清泉女学院大学）と目配りをしました。スマホを頼りに学生がフライパンをかき回す姿に驚きつつ、どれどれ、と近くのお鍋のふたを開けてみると、散策で拾った栗が湯だっていたり、冷凍庫の中には余ったバナナが可愛く並んでデザートに変わっていたり、とその都度、ほほえましい感動がありました。自由時には牧場での乗馬やとびきり甘い乳製品の味を堪能し、夜には楽しそうに歓談していた学生たちの声が今も耳に残っています。

「何とかしよう、何とかなるさ」のたくましさを発見できたこの授業に、準備から実施までかかわらせていただき、この学生たちがこの信州で生き生きと学ぶ姿こそ、「信州の強み」ではないかと実感できました。そして学生にとっては、この合宿を全員が元気に乗り切れたこの経験こそが生きる力になったと確信しています。

第32回 K³ 茶論「長野大学における『障害学生への対応』

～長野大学障害学生支援室による学生支援と学生による聴覚障害学生への情報保障支援活動～ 開催報告

10月30日（水）に開催された第32回「K³ 茶論」は、「長野大学における『障害学生への対応』～長野大学障害学生支援室による学生支援と学生による聴覚障害学生への情報保障支援活動～」をテーマに、障害学生への支援を積極的に行っている長野大学から、障害学生支援室や学生が実際に行っている支援活動についてご報告いただきました。

まず、障害学生支援室長の祐成哲社会福祉学部教授より、「長野大学の現状と課題」および「障害のある学生の授業での配慮」についてお話しいただきました。次に、障害学生支援担当の宮崎莉乃学生支援課主事より、「ノートテイク養成」についてご報告いただきました。また、社会福祉学部4年の掛川倅太郎さんからは、「聴覚障害学生への情報保障支援活動」として、「ノートテイク活動の実際」についての発表がありました。

今回は、長野大学をメイン会場に、信州大学松本キャンパス、長野県看護大学、諏訪東京理科大学、松本歯科大学へ遠隔配信され、県内大学の教職員26名の参加者がありました。



10月30日 第32回K³茶論の様子(長野大学)

大学祭実行委員会交流会活動報告



11月3日 銀嶺祭(信州大学松本キャンパス大学祭)でのアンケート実施の様子

当コンソーシアムでは、平成 24 年度から当コンソーシアム加盟大学の大学祭実行委員会が遠隔講義システムを利用してミーティングを開き、大学の枠を越えて主体的に交流を深めるためのサポートを行っています。

今年度の合同企画は、共同広報として、各大学の大学祭にて、当コンソーシアム加盟大学の大学祭の宣伝活動を行ったり、コンソーシアム信州に関してどう思っているか、また、何をしてほしいか等の、当コンソーシアムについてのアンケートを行ったりしました。当コンソーシアムの知名度はまだまだこれからのようで、当コンソーシアムの広報の充実を希望する声が多く見られました。

平成 25 年度教員免許状更新講習（高等教育コンソーシアム信州開講）開催報告

11月16日(土)に、当コンソーシアムの教員免許状更新講習が、長野県看護大学において開催されました。

当コンソーシアムが開講することにより、講習数が増え、受講者の講習領域が広がり受講の選択肢が増えるなどの利点が挙げられます。

今回は長野県看護大学においての開講のため、南信地区受講者の近隣での受講が可能になり、また、看護を専門とする大学ならではの、専門知識が生かされた講習が開講できました。講習テーマは、「認知症の人から見える世界」(講師：阿保長野県看護大学長)、「身近なデジタルカメラの活用で不思議なミクロ世界の観察をもっと効果的に」(講師：喬長野県看護大学教授)で、長野県内の幼稚園、小中高校、特別支援学校の教諭など 98 名の受講者がありました。



11月16日教員免許状更新講習受講の様子(長野県看護大学)

高等教育コンソーシアム信州主催シンポジウム「大学と地域社会との連携を考える」開催案内

- ◆日 時：平成 26 年 2 月 20 日(木) 15:00 ~ 18:00
- ◆基調講演：武居丈二氏(自治大学校客員教授(前自治大学校長・総務省地域力創造審議官))
- ◆メイン会場：松本大学 5 号館 524 教室(〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1)
※基本的にはメイン会場にお越しいただきたいと思いますが、高等教育コンソーシアム信州加盟大学にも遠隔配信を行う予定です。
- ◆対象：大学教職員に限らずどなたでもご参加いただけます。
- ◆概要：日本経済新聞社産業地域研究所が実施している、大学が人材や研究成果などを地域にどれだけ役立てているかを調べる「地域貢献度」の調査において、本コンソーシアムの加盟大学が、平成 24 年度、25 年度と 2 年連続で、総合ランキングの上位にランクインしました。そこで、各大学の取り組みの概要と特徴的な活動を紹介するとともに、有識者による講演やパネルディスカッションを通じて、大学と地域社会の「地域再生の核となる大学づくり(大学 COC)」の共有について考えていきます。

高等教育機関が地域社会に果たす役割について考える良い機会です。ご参加お申し込み等詳細につきましては、当コンソーシアムのホームページに詳細を掲載いたします(平成 26 年 1 月中旬掲載予定)ので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

遠隔配信授業は e-Learning として受講できるものもあります

当コンソーシアムの長野県内大学単位互換制度には、「通学による単位互換」のほかに「遠隔授業による単位互換」があります。遠隔授業では、他大学が配信する授業を自大学にいながらにして受講でき、それが自大学の単位として認定されますが、この遠隔授業の授業科目の中には、e-Learning(パソコンとインターネットを活用した学習形態)での受講も可能な科目があります。

当コンソーシアムの学習管理システム(LMS: Learning Management System)である eChes(E-learning for the Consortium of Higher Education in Shinshu: イーチェス)を利用して、資料ダウンロード、復習のためのビデオコンテンツ視聴、課題の提出等を行っていますので、履修したい遠隔授業の講義と同じ時間に自大学の必修科目授業がある場合等には、大変利便性の高い受講方法です。お近くに当コンソーシアム加盟大学の学生さんがいらっしゃる関係者の方々、ぜひお勧めください。

平成25年度後期遠隔授業受講状況について

平成25年度後期は12科目が開講され、県内8大学の学生779名（うち単位互換受講者46名）が受講しています。遠隔授業では、当コンソーシアムの遠隔講義システムを利用して、自大学にいなから県内の他大学の授業を履修することができます。遠隔授業を受講して修得した単位は、長野県内大学単位互換協定に基づき、所属大学の単位として認定されます。

■平成25年度後期 遠隔授業受講状況一覧表

(単位：人)

月	授業科目名	担当教員	受講登録者		聴講	合計
			全体	うち単位互換受講者※		
月2	数を読む技術	鈴木治郎（信州大学）	38	3	0	38
月3	教育学B	早坂 淳（長野大学）	38	1	0	38
月5	ドイツ語初級（総合）Ⅱ	松岡幸司（信州大学）	25	3	0	25
火1	自己発見の方法	田村亮子（清泉女学院大学）	52	33	1	53
火4	キャリア形成論Ⅱ—自分の将来像を探るステップ—	赤羽貞幸（信州大学）	224	0	0	224
水1	数値解析法	木村正弘（諏訪東京理科大学）	74	2	1	75
水2	ミクロ経済学	中平千彦（諏訪東京理科大学）	56	2	1	57
水5	ドイツ語中級（読解）Ⅱ	松岡幸司（信州大学）	14	1	0	14
金1	環境文学のすすめ	松岡幸司（信州大学）	35	0	0	35
金2	新聞と私たちの社会（信濃毎日新聞社寄附講義）	分藤大翼（信州大学）	76	1	0	76
金4	キャリア形成論Ⅱ—自分の将来像を探るステップ—	赤羽貞幸（信州大学）	136	0	0	136
金5	科学英語	加藤鉦三（信州大学）	8	0	0	8
計			776	46	3	779

※「単位互換受講者」は「受講登録者全体」の内数。

賛助会員募集のお知らせ

県内高等教育と地域の発展を目指す当コンソーシアムを、サポートして下さる会員を募集しています。詳しくは当コンソーシアム事務局までお問い合わせください。

■年会費 特別会員（長野県内地方公共団体）、賛助会員（団体・個人）とも、1口1万円、1口以上

■会員特典

- ①当コンソーシアム公式Webサイトに、会員として社名（団体名・個人名）を掲載させていただきます（リンクを貼ることも可能です）。
- ②当コンソーシアムのパンフレットに、会員として社名（団体名・個人名）を掲載させていただきます（ただしパンフレットは年1回発行のため、年度途中で会員になった際は掲載できないことがあります）。
- ③当コンソーシアムが主催するフォーラムや講演会の案内をお送りいたします。
- ④「S-NET NEWSLETTER」など当コンソーシアムの刊行物をお送りいたします。
- ⑤会員団体の企画を当コンソーシアムが後援いたします。

活動報告・予定

当コンソーシアムの最近の主な活動は、次の通りです。

- 平成25年 8月 7日（水） 長野県看護大学FD「中教審答申と教職員個人」を加盟大学に配信
- 平成25年 8月30日（金）・31日（土） 「第5回ピア・メンター育成キャンプ」開催
- 平成25年 9月 3日（火） 第8回FDフォーラム「遠隔授業の魅力を高め、利用率を高める」開催
- 平成25年 10月30日（水） 第32回K³茶論「長野大学における『障害学生への対応』～長野大学障害学生支援室による学生支援と学生による聴覚障害学生への情報保障支援活動～」開催
- 平成25年 11月16日（土） 信州大学及び長野県看護大学の連携による教員免許更新講習開催
- 平成25年 12月17日（火） 第33回K³茶論「なぜ、わたしたちは自然環境を守ろうとするのか？～ひと（人）がさと（里）にすむ（住む）ということ～」開催
- 平成26年 1月22日（水） 「インターンシップ成果発表会」開催予定
- 平成26年 2月20日（木） シンポジウム「大学と地域社会との連携を考える」開催予定

編集後記

高等教育コンソーシアム信州はこれまで学生の単位互換をメインに活動を行ってきましたが、今後は「地域貢献」という視点からの連携拡大にも重きを置き、行政と協力した事業展開も進めたいと考えております。加盟大学内だけでなく、地域のみなさんともいっしょに長野県を盛り上げていきたいです。

